新型コロナウイルスの感染が広がるなか、いま最も心配されているのが「医療崩壊」を含めた病院の対応である。感染症や呼吸器とは違う専門の医師たちも、非常に悩ましい状況に面している。私のような歯科医も例外ではない。

最近、米紙ニューヨーク・タイムズにちょっと怖くなる記事が掲載されていた。各職業別の感染リスクを表したグラフで、最高位が歯科医となっていたことだ。人との距離が近く、感染しやすいことが理由である。

休業選ぶ開業医も

私自身、歯科医としてここ15年ほど、介護施設での往診を主に行っている。施設では、入居者の健康を守り、感染を防ぐため、家族の面会を全面禁止にしているほか、施設見学や新規入居を自粛するなど、緊張感は高まっている。ただ、入居者にとって歯の健康は大切だ。食事を取るための歯の治療や義歯の調整、誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアは欠かせないので訪問診療は不可欠だ。診療所の方へも「治療に行っても大丈夫でしょうか」といった問い合わせが相次いでいる。

私の知り合いの開業医の間でも、休業を選ぶ人と選ばない人に分かれており、どちらが正しいとも言い難い。患者の需要があれば、診療を行うことは医療従事者としての責務だ。

しかし、万が一、スタッフや来院者に感染者が出てしまうと、多くの人に迷惑をかけることになってしまうリスクは無視できない。

台湾やアメリカでは、歯科医師に対し、定期検診や歯石除去など、緊急性を要しない歯科治療をしばらく見合わせるような要請を行っている。歯科医院のクラスターが滋賀県で発生したため、日本でも同様の動きが広がっている。

私も、まだ結論は出せていない。正直、感染への恐怖心がないわけではない。しかし、こうした時だからこそ、求められる治療は続けたい使命感もある。

口腔ケアは重要

はっきり言えるのは、新型コロナ対策上、口腔ケアはとても重要だという点だ。

日本歯科医学連合会の新型コロナウイルス感染症対策チームは、「ウイルス感染に対抗する歯科の重要性」という呼びかけで、口の中を清潔に保つ口腔ケアは、ウイルス感染への水際対策になると指摘している。

口腔ケアをおろそかにすることで、腸内細菌のバランスが乱れ、免疫力の低下につながる。新型コロナによるウイルス性肺炎と、口腔内の細菌による細菌性肺炎のダブルパンチとなれば、命を落とす危険性がより高くなる。

日本を含め、世界における新型コロナの広がりを見る限り、残念ながら、1、2カ月という短期間で終息するとは考えにくい。感染力の強さや未発症の感染者がいること、ワクチンの開発にかかる時間、今後の流行再発なども念頭に置くと、新型コロナとは年単位の長さで付き合うことが前提になりそうだ。

いくら緊急事態宣言が出されてるとはいえ、歯の痛みを我慢して食べる楽しみを失ってしまえばストレスがたまる。必要な歯科での治療を受けつつ、うがいや歯磨きで家庭でも十分な口腔ケアを心がけ、免疫力アップにつなげてコロナ時代を乗り切ってほしい。

歯科医の側も、慎重に患者さんと向き合いたい。院内感染を防ぐため、マスクやグローブ、ゴーグルを着用し、治療器具の滅菌、消毒液による待合室の清拭、定期的な換気など、感染対策を通常より強化し、安心して通院できる環境を整えながら診療を行うことが大切になる。

歯の健康を守ることは、免疫力アップのためにも大切だ

◇次回は6月3日です。

食べる楽しみ失わせない

コロナ時代の歯科医

人生妙(たえ)なり(みょう)

一青妙

ひとと・たえ　台湾人の父と中能登町をルーツに持つ母との間に生まれる。家族や台湾をテーマにエッセーを執筆。台南市親善大使と中能登町観光大使を務める。著書『私の箱子』『ママ、ごはんまだ？』を原作に映画化。最新作は『璃島(りとう)ぐるっと台湾一周の旅』（東洋経済新報社）。